

令和 5 年 1 2 月 2 2 日 二学期終業式

校長の話 「通知表 と 元号」

校長 上村哲也

おはようございます。今朝もみなさんは元気なあいさつをしていました。とても嬉しい気持ちになりました。

今日で2学期が終わります。12月はインフルエンザが猛威を振るい、多くの学級閉鎖がありましたが、予定通りの学校生活を送ることができ、こうして終業式を迎えることができました。児童のみなさんや職員のみなさんの取組に感謝します。

さて、今日は担任の先生から通知表が手渡されます。通知表は先生からの応援メッセージです。ぜひ、大切に読んでください。

それから、今日配付した「学校だより」に、「家の人に伝えたい自分でがんばっていたこと」を書く欄を設けました。そこに記入して、通知表とあわせて2学期の取組をご家族の皆さんと一緒にふり返ってほしいと思います。

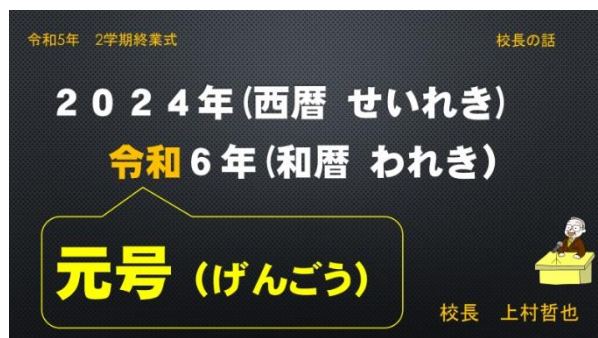
さて、あと少しで新しい年を迎えます。

来年は令和6年です。世界では、その年を表すときに、例えば2024年という表し方をするのが一般的です。この表し方を西暦といいます。西暦は、イエス・キリストが生まれたとされる年を始まりとして数えたものです。

ですが、日本では、令和6年という表し方をする方が多いと思います。この表し方を「和暦」といい、令和や平成などを「元号」といいます。今日は元号の話をして、ちょっとだけ新しい知識を増やしましょう。

元号は、今から2000年以上も前、中国で使われ始めたもので、偉い人が、国の平和を祈って縁起のいい名前をつけたり、自分の力をアピールする意味を込めた名前などを付けたりしていたそうです。その文化が伝わって、日本でも元号が使われるようになりました。

中国や日本以外にも、漢字を使う文化のある韓国や北朝鮮、ベトナムや台湾でも元号が使われていたそうですが、今も元号を使っているのは、世界でも日本だけです。



では、どのようにして元号を決めているのでしょうか。

実は元号の決め方は法律で決まっています。今は天皇が変わるとき（即位）に、元号も新しいものにする決まりになっています。総理大臣が国の芸術や歴史などに詳しい専門家を何人か選び、新しい元号のアイデアを出してもらい、最後は政府が決定しています。

日本で元号が使われるようになったのは、今から 1380 年ほど前の（西暦）645 年です。最初の元号は「大化」でした。その年に大きな政治の変革があり、中国の制度を取り入れて元号を使うようになりました。6 年生は「大化の改新」と言えばピンとくるでしょう！



「大化」から、今の「令和」まで、日本では 248 個の元号が使われてきました。

それにしても、248 という数は多すぎると思いませんか？ 実は、今と昔では元号を変えるときルールが違っているからなのです。

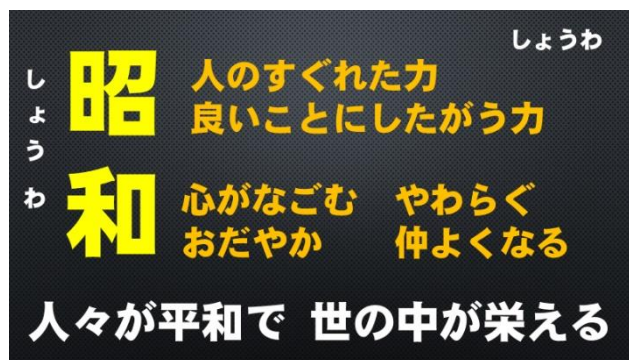
「明治」からは、天皇が即位するときに新しい元号に変えるようになりましたが、それよりも前は、地震や火災、食べ物が足りないといった良くないことが起きた時や、その逆に、美しい雲が現れる、珍しい模様の亀が見つかるといった良いことがあった時など、いろいろな理由で元号を変えていたのだそうです。元号を変える「改元」というのは、それまでの時代を終わりにして、また一から始めるという意味が込められていたのです。

ここからは、私たちに関係する 3 つの元号について、それぞれに込められた意味を見てみようと思います。

【昭和】

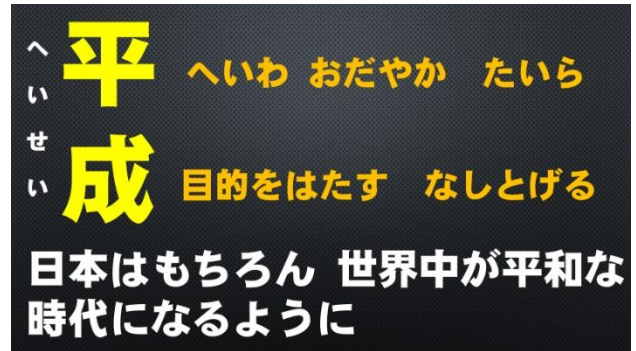
「昭」は人々の「徳」（人の優れた力、良いことに従う能力）、

「和」は「心が和む（やわらぐ、おだやか、仲良くなる）」ことを表しています。「みんなが徳をもてば、仲良くなり気持ちも和らいで落ち着く」ということを表し、「人々が平和で、世の中が栄えること」・・・そんな時代になることを願って付けられた元号です。



【平成】

「平」には「平和」、「成」には「目的を果たす、成し遂げる」という意味があります。つまり平成というのは、「日本という国はもちろん、世界中が平和な時代になるように」という希望が込められているのです。



【令和】

日本で一番古い、詩や歌が集められた本に「万葉集」というものがあります。そこに、次のような歌が記されています。

「初春の令月にして気淑く風和らぎ
梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の
香を薫らす」

(しよしゅんのれいげつにして き
よくかぜやわらぎ うめはきょう
ぜんのこをひらき らんはいご
のこうをかおらす)

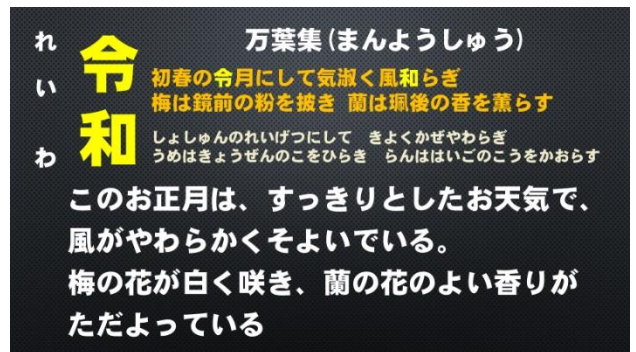
これを分かりやすく訳してみると、
「このお正月は、すっきりとしたお
天気で、風がやわらかくそよいで
いる。梅の花が白く咲き、蘭の花のよい香りがただよっている」となり
ます。

「令」には「立派、清らか、めだたい」などの意味があります。昭和でも使われた「和」には、「心が和む」などの意味がありましたね。「和」の字が使われたのは、なんと、20回目だそうです。

当時の安倍総理大臣は、会見の中で「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味を込めたと話していました。また、国は外国に向けて「Beautiful Harmony＝美しい調和」と伝えています。

私たちが暮らす「令和」が、平和で皆が幸せに暮らしていけるような時代にしていきたいですね。

ちなみに日本由来の元号は令和が初めてなんです！これまでの元号はすべて中国由来でした。



※参考に

【明治】

明治という文字は「明るく治まる」と書きます。つまり、新しい時代が「明るい国になるように」という願いがこめられていた元号なのです。

【大正】

「大」には「有力者・上に立つ人」などの意味が、「正」には「間違いのない・整っている」などの意味があります。「人をみちびく人は、みんなの言葉をしっかり聞いて行動すれば、政治は正しく行われる」・・・そのようになってほしいという思いが込められています。



これで話は終わりです。今日の話を少し思い出して、新しい令和6年を迎え、ご家族の皆さんと楽しいお正月を過ごしてください。

新年の1月9日（火）に元気な姿でまた会いましょう。

